

KORIYAMA KOUKIKEN



# かっこいい大人、 いました

こおりやま広域圏  
わかものボーダーレスプロジェクト  
2024

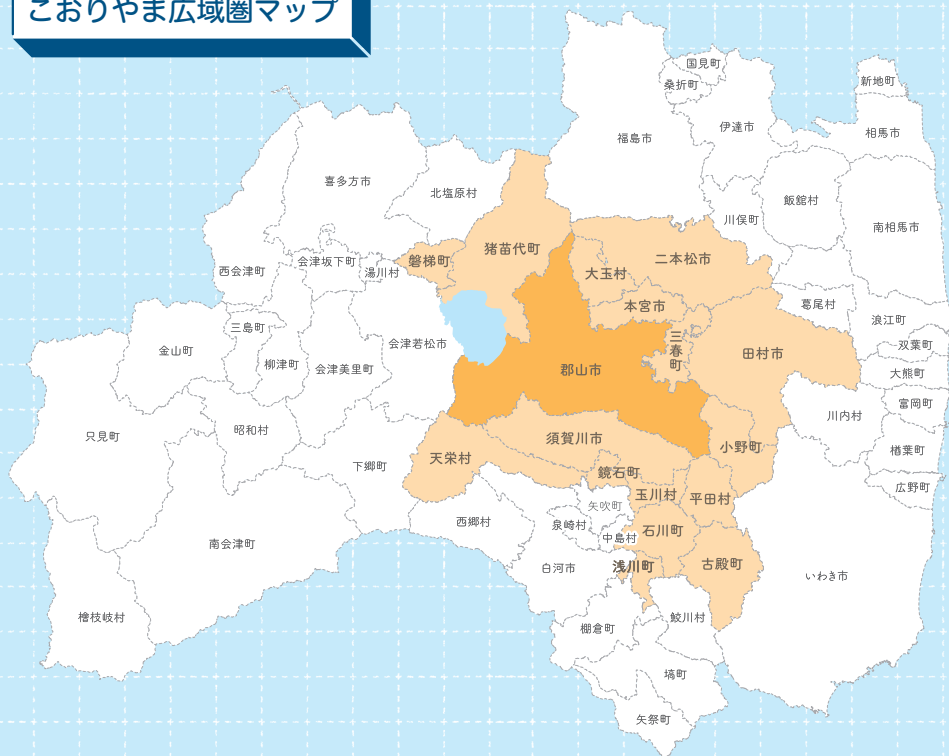


## こおりやま広域圏とは

郡山市を含む近隣市町村では、住民が引き続きそれぞれの地域で生活できるように利便性を向上させ、将来にわたって豊かな地域として発展していくことを目指し、「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」を形成しています。

各分野でのネットワークを構築し、それぞれの強みや地域資源を活かして、地域課題を解決する取り組みを行っています。

## こおりやま広域圏マップ



▼ 構成：5市8町4村（中心市：郡山市）

▼ 人口：約60.5万人（福島県の約1/3）

▼ 面積：約3,373 km<sup>2</sup>（福島県の約1/4）

▼ 構成市町村：郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

（2024.10.1時点）

## 「こおりやま広域圏わかものボーダレスプロジェクト2024」とは

本プロジェクトでは、「地域で活躍する『カッコいい大人』を発掘し、発信しよう！」という活動目的のもと、有志が集まった高校生8名が約5ヶ月間に渡り、自分の興味関心を深掘るワークショップや、地域で活動している『カッコいい大人』へのインタビューを通じた学生視点での紹介記事の作成、これらの取り組みを通じて得たまちづくりに対する気づきの発表などに取り組んできました。

この冊子では、高校生8名が出逢った『カッコいい大人』に実際にインタビューをして執筆した記事をまとめています。

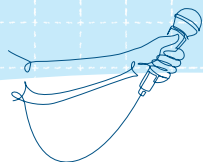
皆さんがこの冊子を通じて、新たな地域の魅力に気づいていただけたら嬉しいです。

## 高校生メンバー紹介

- 菅野 輝 (Kan no 輝) 帝京安積高等学校 1年生
- 鈴木 葵 (Suzuki 葵) 岩瀬農業高等学校 1年生
- 花里 明彦 (Hanari 明彦) 日本大学東北高等学校 2年生
- 高橋 凛 (Takahashi 凛) 郡山女子大学附属高等学校 3年生
- 木村 百花 (Kimura 百花) 郡山高等学校 1年生
- 安藤 太一 (Ando 太一) 帝京安積高等学校 1年生
- 志賀 雄彦 (Shiga 雄彦) あさか開成高等学校 1年生
- 添野 耕平 (Soe no 耕平) 帝京安積高等学校 1年生



有限会社お花畑

代表取締役/  
宗像 有美さん

**鈴木 葵 (以下、葵)** 以前、祖母が介護施設に入った時、職員の方の優しさに触れ介護の世界に興味がありました。初めに、この仕事に就く前のことを教えてください。

**宗像さん** 正直、はじめの頃はこの仕事をやりたくてやっていたわけではなく、元々は事務関係のお仕事に就いていました。その事務のお仕事も結婚を機に退職し、結婚後は英会話教室を開いていました。その英会話教室も出産を機に辞めて、出産後は実家を借りてヘルパーのお仕事をしながら ECC ジュニアを少し前まで開いていました。

**葵** そこからどのようにして、介護という仕事に就いたのですか？

**宗像さん** 「有限会社お花畑」は私が2代目で、三年前に母から引き継ぎました。介護の資格は学生時代に取っていて、出産後に母の仕事である介護の仕事を手伝い始めました。母から事業を継ぐように言われたわけではないんですけど、子育てをしながら働くのに時間の融通がつけやすいとされていて、最初の頃はアルバイト感覚でやっていました。ただ、介



護の仕事をやっていく中で、自分の中で培えるものができたと思い、介護の仕事の本格的に始めようと思いました。

**葵** 実際に働いてみて、徐々に自分の中で介護に対する気持ちが変わったということですか？

**宗像さん** たくさんの利用者とその方のご家族に会えたり、人生の大先輩と身体的に関われたりする仕事は、他にはないと思いました。何気ない会話も、最初の頃はただただ自分の意識が「早く終わらないかな」で終わってしまっていたから、全てが流れ作業のようになっていきました。段々と人との関わりが深くなっていくにつれて、1人の利用者さんとの関わりが1年、2年、3年……とお互いの関係性が深くなっていきました。そういった中で、自然と「利用者さんの毎日の生活をどうやってよりよくすることができるだろう」と思ったあたりから、自分の中で全ての意識が変わっていきました。

**葵** そのように意識が変わっていく中で、今はどんな想いで仕事をしていますか？

**宗像さん** 明日、この方の命がどうなるかわからないし、当たり前が当たり前じゃなくなる世界だからこそ、来年、この利用者さんの誕生日と一緒に祝えるとも限らないと思っています。そして、その利用者さんの人生の最後の部分に関わらせてもらって、介護ってこんなに尊いものなのだ、自然と日常を送っていく中で実感させられています。

インタビュー

岩瀬農業高等学校1年  
鈴木 葵

## ◆インタビューを行っての感想

私はこういう体験は初めてのことで、緊張していました。ですが、なりたと思う職種についている人に話を聞ける機会は滅多にないので、いろんな話が聞けたと思っていますし、いい経験だったと思っています。インタビューをしに行った時は、最初は「うまくいくかな？」と考えていましたが、話している中で、空間が温かくなって、いつの間にか緊張も解けて笑顔で話すことができてきました。私はこの経験を活かして、自分の将来に少しでも近づけたらいいなと思っています。楽しく、笑顔で、インタビューすることができてよかったと思っています。

## 私の思う「カッコいい大人」とは……

自分や仲間を信じることができて、優しさを持って人と接することができる大人。



**葵** その想いを職員の方にどう伝えていますか？

**宗像さん** 正直、今まで「有限会社お花畑」に理念というものはなく、母の想い自体が理念になっていました。そんな中でも、自分の想いや母の想いをどうやって従業員の人みんなに伝えられるか、と考えたら言語化されたものがない限りは難しいですね。なので、母と一緒に理念を考えました。

**葵** 理念を通じて職員の方に対して思うことはありますか？

**宗像さん** 一緒に働く仲間たちには、利用者さんの生きる喜びをどうやったら私たちの一瞬一瞬の関わりで少しでも生きる喜びに繋げることができるのか、「この仕事をしていてよかった!」「お花畑で働いてよかった」と思いながら働いてもらえるかを意識しています。もっと

言えば、そういったことを実現しましょう!というのをモットーにこの仕事をやっています。

**葵** この仕事のやりがいや、難しいことはなんですか？

**宗像さん** やりがいは、同じことを言われたとしても自分のコンディションによって捉え方が違うことをこの仕事を通して教えてもらいました。仲間に恵まれたことや、利用者さんに会えたことは幸せに感じています。

難しいことは、働く目的の違いでしょうか。その中でも、その価値観と自分が求めている理想とする形をどう融合させていくかを考えていました。

将来の野望として、高齢者も障害がある方も子どもも、外国の方も、みんなが集まれる空間を作りたいです!

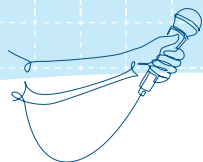


# INTERVIEW

## 02

郡山駐屯地

司令職務室室長／  
西澤 徹さん



私が自衛隊の基地に足を踏み入ると、静かな緊張感が漂っていました。取材相手の西澤さんは真面目な表情をしており、とてもカッコいい制服を着こなした方でした。

**菅野 輝** (以下、輝) 西澤さんの現在の階級について教えてください。

**西澤さん** 階級は陸上自衛隊の三等陸佐で、これはいわゆる少佐に相当します。現在は高射砲を扱っています。過去には飛行機を打ち落とすための対空砲を扱っていました。

その他、指令室長として重要な役割も担っています。

**輝** 自衛隊へ入隊した理由は何だったのでしょうか？

**西澤さん** 入隊に至った理由は父の影響です。父の勧めで陸上自衛隊高等工科学校に入



学し、そのまま卒業後は自衛隊へ入隊しました。

**輝** 自衛隊の教育や訓練内容はこういったものなのでしょうか。

**西澤さん** 訓練内容は全国の駐屯地で大きく変わりなく、体力や精神力を鍛えます。そのほかに、個人の能力に応じて適切に訓練を行い、それぞれの個性を伸ばす訓練を行っています。

**輝** 自衛隊で学んだことや、教訓などありましたら教えてください。

**西澤さん** 自衛隊で学んだことの中で最も印象深いのは、東日本大震災を通じて得た教訓です。この経験を通じて、自分が自衛隊としての責任と立場の重要性を深く理解し、多くの命を救うための覚悟を新たにしました。

**輝** 福利厚生や生活環境についてはいかがですか？

**西澤さん** 自衛隊では、隊員の健康と生活の質を高めるために、様々な福利厚生が整備されています。例えば、医療施設などが整っていることや、衣食住に基本お金がかからないなど充実しています。制服等もすべて無料のため、隊員が安心して生活できるような環境が整っています。

他にも家族を支援するプログラムも充実しており、全体として非常に充実した生活環境が提供されています。

インタビュー



帝京安積高等学校 1年  
菅野 輝

### ◆インタビューを行っての感想

自衛隊の基地を訪れた際、私は彼らの規律と献身に強い感銘を受けました。厳しい訓練を受ける彼らの姿から、国の安全を守るための日々の努力がいかに重要であるかを実感しました。また、チームワークの重要性も深く感じました。各隊員が互いに信頼し、協力し合う様子は非常に印象的でした。自衛隊から得た教訓は、私たちの日常生活にも応用可能であり、規律、献身、協力の重要性を再認識する機会となりました。この経験を通じて、彼らの仕事の意義とその背後にある努力を理解することができました。

### 私の思う「カッコいい大人」とは……

私が考える魅力的な大人とは、他者のために生きることができる人だと思います。



**輝** 自衛隊の誇りと魅力について教えてください。

**西澤さん** 自衛隊は素晴らしい人間性を育成し、精神や人格を成長させるための環境が整っています。先ほどお話したように、責任感や覚悟を決める心を作ることができるというのも自衛隊特有の魅力だと感じました。

**輝** 自衛隊の中で誇りに思うプロジェクトはありますか？

**西澤さん** 人命救助と国際平和維持活動(PKO)です。多くの命を救うための活動に強い誇りを感じます。例えば、災害時には迅速に現場へ駆けつけ、被災者の救助や支援活動を行いました。

また、PKOに参加することで国際社会における日本の役割を実感し異なる文化や背景を持つ人々と協力し、平和と安全を維持する

任務に取り組むことは、自衛官としての使命感も強まります。

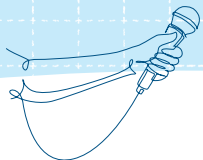
### 最後に

西澤さんは長い自衛隊生活で多くの経験を積み、インタビューを通じて自衛隊としての一面やエピソードを聞くことができ、とてもカッコいいと感じました。また、彼らの誇り高い使命感と厳しい訓練の中で培われた精神力と覚悟に感銘を受けました。特に、東日本大震災での活動やPKOでの国際貢献は彼らの献身と責任感を強く感じさせられ、それは充実した福利厚生と生活環境が隊員の健康と成長を支えていることも印象的でした。彼らの努力と献身に心から敬意を表します。





KFB 福島放送

プロデューサー／  
松井 久貴さん

**花里 明彦** (以下、明彦) はじめにプロデューサーとディレクターの違いを教えてください。

**松井さん** ディレクターというのは要は現場監督で、ロケとか取材に行ってロケ台本を書いて、ロケをして編集をすることだね。そして、プロデューサーというのは現場監督じゃなくてその番組の責任者になるんだよ。例えば出演者を決めたり、企画内容を決めるとか。

だから、番組が人気番組になればディレクターが褒められ、番組がこければプロデューサーが怒られるというそんな役割です。

**明彦** プロデューサーとしての仕事のやりがいを教えてください。

**松井さん** やっぱり自分が伝えたいこと、面白いと思ったことだったりとか、あるいはこれは世間の方々に伝えなくてはいけないとか。そういう情報っていうのは結構世の中にありますよね。

そういった情報を不特定多数の方々に伝えるお仕事なので、すごく責任感はあるけれど、その分やっぱり反響はあるのでやりがいはありますよね。

**明彦** プロデューサーをしていて辛いと思うところはありますか。

**松井さん** 毎日それは辛いですよ。なぜかという、毎日通信簿っていうのがあるんですよ。今、「シェア！」っていう番組を月曜日から金曜日まで毎日放送していて、それで次の日の朝にはもう視聴率が出る。それを毎日毎日「昨日は5段階のうち3でした」とか「昨日は5段階のうち1でした」って毎日反省をする。まあそれが辛いところでもあり、「やってやるう」というやる気にも繋がりますね。

**明彦** プロデューサーになるために必要な能力はありますか。

**松井さん** プロデューサーに必要なものはなんでも面白がれる能力。

なんでも面白がる、どんなことにも興味を持つ。今はどうしてもネットなどで自分が興味のあるものしか見ようとしなくて、そうじゃなくて、テレビの仕事はいろんな情報を使わなくてはならない。興味のない情報でも場合によっては面白がって自分の目線で掘っていかないといけない。だからプロデューサーになるためには「何事でも興味を持つ力」が必要だね。

**明彦** プロデューサーの仕事を始めようとしたきっかけはなんですか。

**松井さん** プロデューサーというか、私の場合は元々は映画が好きで映画監督になりたかったんですよ。元々は。ただ、私がちょうど映画監督を目指した頃というのは映画産業というのが傾いている時代で、映画監督になるハードルが高かったんですよ。それで、そのテレビディレクターというものが、なんとなく映画監督に近い気がしてテレビ業界に入ったんですが(地獄の下積み時代へと続く……)。

**明彦** プロデューサーになるきっかけになったテレビ番組はなんですか。

**松井さん** それでいうとね、映画になっちゃうけど「ショーシャンクの空に」っていう映画だね。それを高校の授業の時に観ただけけれど、もう観終わった時に武者震いがしてね。「メッセージ性の強い映画」だったんだよね。それは何よりも希望を持つことが生きる上で大事なんだ、みたいな。

そういうメッセージを伝える映画だったんだけど、当時の自分に刺さったんだよね。そこから「映像というものはいろんな人に影響を与えるのか」と衝撃を受けて、自分もこういう仕事をやりたと思ったのがきっかけ。それがなんか巡り巡ってテレビの世界に繋がった、みたいな。

**明彦** プロデューサーになると自分が作った番組以外を観てなにか学ぶことってありますか。

## インタビュー

日本大学付属高等学校2年  
花里 明彦

## ◆インタビューを行っての感想

色々質問を考えていましたが、いざとなると頭が真っ白になって忘れてしまうんだなと思いました。そんな中でも笑顔で聞いてくれた、ベイマックスのような優しく包み込むような対応してくれた松井さんには本当に助けられました。周りにいたえみたろさん達にも助けられました。

またインタビューをする機会があったら、1回目のワークショップで習った相槌や聞き方をもっと上手く活用していきたいです。

## 私の思う「カッコいい大人」とは……

自分の夢を達成するために他人のアドバイスをしっかり柔軟に受け止めて、自分の考えに組み込むカメレオンみたいな人。



**松井さん** 全部コピーするわけにはいかないんだけど、話の作り方やテロップのデザインとかね。

細かいところでも取り入れられるところは取り入れる。それはテレビに限らず、例えば本だったりポスターからもいろんなものを自分の中の引き出しに入れていって、いつこれを出すかは分からないけれどインプットすることは常に意識してますね。

**明彦** 今まで作ってきたテレビ番組を教えてください。

**松井さん** 今は「シェア！」っていう番組をやっていて、今まで作ったテレビで思い出深かったら「福島県民ラーメン総選挙」とか「クイズふくしまのイッピン」とかですかね。

そういう番組を作るのに、例えば60分の特番ラーメン総選挙みたいなやつだと、大体3ヶ月くらい。ただ、それを毎日ずっとやってるわけではないけど、大体オンエアまでタレントや出演者のキャスティングとか、ロケ日程を決めて、そこに向けてディレクターが準備をしていくのをオンエア3ヶ月前からやってるからね。

**明彦** 番組予算が足りなくなったらどうするのですか。

**松井さん** 足りなくならないようにするのがプロデューサーの仕事なので、予算が収まるように予算管理をしています。逆に、余らないようにするのもプロデューサーの仕事なんです。余ってしまったら次の年に予算が削られてしまう



のでね。そういうことがあまりないようにしないとね。

ゴールデンタイムなんかはやっぱり視聴率も高い、なので自然とスポンサーも増えるので予算も高くなる。逆に深夜帯だと中々スポンサーがつかないから、予算も中々つかないというはあるね。

**明彦** 過去に番組にクレームが来たことはありますか。

**松井さん** それはありますよ。間違った情報を流してしまったり、リポーターのあのコメントはないだろうとか、あれはマナーが悪いだろうとかね。そこは真摯に受け止めて当然改善を図るよね。

**明彦** 芸能人で誰かと一緒に番組をしてみたいとかはありますか。

**松井さん** 綾瀬はるかさんですね。綾瀬はるかさんには毎年のようにオファーを掲げていますが、中々スケジュール NG で、まだ出ていただけていませんが。

**明彦** どんな有名人と番組をしたことがありますか。

**松井さん** 私は元々福島ではなく東京にいたので、その時に特番で浜崎あゆみさんとか。

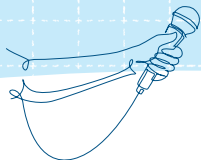
私は八王子の出身で7年前に福島に来ました。なんかね、何かご縁があったんでしょうね。ローカル局合同説明会みたいなあって、福島市のローカル局がディレクターが足りないというような話があって、それで行ってみようかな、みたいな。

**明彦** 最後に、松井さんにとってテレビ局のプロデューサーってなんですか。

**松井さん** 「引き出し屋。」

どういうことかっていうと、プロデューサーって番組の中で、例えば1個の番組を作るのに何十人も出演者がいる、ディレクター、カメラマン、あるいはメイクさんとかいろんな人が気持ちよく仕事ができる環境を作って、さらにその方たちの能力を引き出してあげて番組の質を上げるというのが、やっぱりプロデューサーの役割だと思っています。

郡山コミュニティ放送 ココラジ

パーソナリティ/  
柳沼 万友佳さん

このプロジェクトに参加した私は、来年ミスうねめに応募してみたいという思いから、元ミスうねめで現在ココラジのパーソナリティをしている柳沼万友佳さんにインタビューをさせていただきました。

**高橋 凛** (以下、凛) まず柳沼さんがミスうねめに応募した理由やきっかけを教えてください！

**柳沼さん** 当時、私がなったときはちょうどコロナ禍で、大学3年生になるタイミングでした。東京の大学に通っていたのですが、コロナ禍ということで福島県に戻ってきて、実家にずっといて、外出もできなくて。新しい活動とか経験が何もないなと思い、せっかく時間があって地元にいるということを活かして、何か動き出したいなって思っていました。そのときにInstagramでちょうどミスうねめ募集中という広告が流れてきて「お！これじゃない?」と思って応募しました。

**凛** ミスうねめのお仕事の内容について教えてください！

**柳沼さん** 全体的な流れとしては、選考会があって、まず立ち振舞いなどの研修を受けたり、郡山市の基礎知識を学ぶために様々なところを訪問しました。その後に、表敬訪問をしていきます。それが終わって、ようやく私達がミスうねめになったなという感じがするんです！ですが、私達の代はコロナ禍ということで姉妹都市との交流や引き継ぎ式は縮小

されてしまいました。引き継ぎ式に関しては、うねめ祭りが休止中だったので郡山駅前広場で先輩方と踊って、はなかつみの花を受け取るだけになりました。その後は自分たちがミスうねめとして「うねめ供養祭」に参加して、私達の代はすぐに引き継ぎ式になってしまいました。他には個人個人で何かの開幕式やイベントに参加をしてPRしていくという活動をしていました。

**凛** 現在ココラジのパーソナリティはどのような経緯でやってらっしゃるのですか？

**柳沼さん** 学生時代はもともとアナウンサーに憧れていて、将来はアナウンサーになって地元福島県をアピールしたいと考えていました。そのために、まずは福島県について知らないといけないと思って福島県に関わるような活動だったり団体には積極的に参加していこうと考えていて、SFF (Spread From Fukushima...福島県内最大級の学生コミュニティ) の活動やミスうねめに参加しました。そうした活動の中でやっぱり福島県は面白いと思いました。

ココラジのパーソナリティになった理由は、アナウンサーにはなれず地元の企業に入社をして楽しくやりがいいをもって仕事してきたのですが、やはりどこかやりきれない思いがあったからです。実は高校生のときからココラジとはつながりがありました。先程言ったSFFの活動やミスうねめの活動でもご縁があったので、私のやりきれない気持ちをどう

インタビュー

郡山女子大付属高等学校 3年  
高橋 凛

## ◆インタビューを行っての感想

今回、柳沼万友佳さんにインタビューをさせていただいて、自分の気になる活動について詳しく知ることができただけでなく、これから新しい道を進んでいく上で優しく背中を押してもらったことができました。自分の憧れのために今の自分にできることを探して精一杯取り組み、憧れていたことに手が届かなくても諦めず、自分から行動を起こし、「今」を掴みとった柳沼さんはとってもかっこいいと感じました！自分の考えや行動にまだまだ自信が持てない私ですが、柳沼さんの起こした行動や大切にしたいと考えていることが、今の私を肯定してくれているような気がしました。今こうして少し道に迷っている私がこの様な機会に恵まれて柳沼さんに会えたことも、きっと「縁」なのですね！

私の思う「かっこいい大人」とは……

今の自分にできるやりたい道を探し精一杯取り組める人。



にかこの場所で力に変えてもらえないかなって気持ちで、パーソナリティって今募集してませんかとご連絡しました。そのときは今は募集してないと言われてしまったのですが、その数ヶ月後にやってみませんかと声をかけていただき今に至ります。現在は、学生のときの思いも合わせて発信できたらなと思って活動しています。

**凛** ミスうねめになったからこそできたことはありますか？

**柳沼さん** 地元だからこそ知らない場所をたくさん勉強することができたことです。地元ってなんとなく安心感がある場所なので、自分から調べないと行かないところや知らない知識をこの活動を通してたくさん学べたと思います。また、同じ年代の仲間に出会っていろんな思い出を共有し、一体感を持って活動できたこともそうだと思います。

**凛** 先程から少しお話に出てきているSFFで

はどのような活動をしていたんですか？

**柳沼さん** 当時の趣旨としては、震災から10年を記念して福島県に関わりのある学生たちが集まって福島県の良さや震災によるちょっとネガティブなイメージを、学生の若い力で吹き飛ばしていこうということをテーマに活動していました。震災から10年たっているのになかなか復興されないというところに注目されがちだけど、私達から見たら意外と復興して取り戻しているものがあるので感じていたので、学生というメディアとは違う視点からアピールしていこう、と活動していました。

**凛** 柳沼さんは今までたくさんの活動をされてきていますが、今までの活動を通して大切だと感じていることはなんですか？

**柳沼さん** 間違いなく縁です！今こうしてココラジのパーソナリティをやっていることもそうですし、SFFでイベントを運営していく上でも自分たちとはまったく関係のないところから巡り巡って手を貸していただけることもありました。また、ミスうねめの活動で仲間と会えたことも、それを企画している裏側を作っていた方々とお会いして郡山市のイベントがどのようにできているのか知ることができたのも、全て人の縁だな感じています。そういう縁を大切にしたいと思っています。もし離れてしまった人がいたとしても、離れたところからでも陰ながら応援したり、自分はその人たちを大切に思っていることが大事だと思っています。



郡山市中央図書館

司書/  
安藤 美賀子さん

**木村 百花 (以下、百花)** 司書になったきっかけはなんですか？

**安藤さん** 最初はただ本を読むのが好きでした。お小遣いを貯めて近所の本屋さんに行き、ちょっとずつ買って、本棚に本が増えていくのが嬉しくて楽しくて。

中学生の時は部活ばかりでしたが、夜に赤川次郎の本を読んでました。高校生の時に図書室の先生が優しい先生で、たまに図書室に行くようになり、図書室の先生になるのもいいなぁと夢見てました。

**百花** 仕事のやりがいは何ですか？

**安藤さん** お客様がずっと探していた本を図書館で見つけたときです！「古本屋さんとかに行ってもどこにもなかったけど、ここにあったんだ。流石図書館だね」と言われたりすると嬉しいです。ただ、本だけじゃなくて本に載ってるものを調べるために図書館に来る人も多いです。その調べているものが見つかった時に頑張ってたかったなと思います。逆に、全然見つからなかった時は悔しいですね。

お客様の探し物で、ラジオなどで聞いてうる覚えな本は、単語で分けてキーワード検索をしています。少し古い本で急に沢山予約が入る時はだいたいテレビやラジオで紹介されますし、ラジオやテレビの影響力は大きいです。人気がある本は200件もの予約がされるこ

ともありますよ。

**百花** 仕事をしていて大変なことはなんですか？

**安藤さん** 力仕事が多いことです。意外と体力が必要なんだと図書館に入ってびっくりしました。本が重いので大きい箱に詰めて運ぶのが大変で、腰を痛めないようになるべく複数人で持つようにしてます。ブックトラックに入れて運んだり、台車に乗せて運ぶこともありますよ、50冊以上運ぶことができますよ。

他には、郡山市はどの図書館で借りた本も近くの図書館に返せるので、他の図書館への仕分け作業が大変です。特に、郡山中央図書館は返却される本が多いので、その配架(本を棚に戻す作業)も大変です。土日などのお休みの日は職員が半分くらいしか出てないの



インタビュー

郡山高等学校1年  
木村 百花

## ◆インタビューを行っての感想

今回安藤さんへのインタビューを通して、図書館司書の仕事の難しさとやりがいを学びました。体力やパソコン操作、本の場所を覚える記憶力、単純作業を続けられる精神力など必要な能力が多く、司書の仕事は大変だと思いました。それでも、笑顔で楽しそうに仕事を話す安藤さんを見て、私も将来こういう大人になりたいと思いました。自分で選んだ仕事に誇りを持ち、やりがいを感じて日々働いている安藤さんは本当にすごいなと思います。将来私も胸を張って自慢できるような仕事に就きたいです。

私の思う「カッコいい大人」とは……

誰かのために自分のできることを一生懸命行う人。

で、学生アルバイトさんが1日中配架しています。自分で返す本棚を探さないといけないので棚に戻すのも大変ですが、30年やっていると場所も覚えます。ただ、人事異動で郡山市の図書館を全て回っているの、たまに他の図書館と混ざってしまうこともあります。私も初めは臨時の職員で入ったのですが、入って初日は1日中本を棚に戻す作業で、ものすごく疲れてしまっ。明日から行きたくないって思いました。

**百花** どうやって図書館司書になりましたか？

**安藤さん** 高校生の時は本に関わる仕事をしたいと思っていたので、資格が取れる郡山女子短期大学へ行ってそこで図書館の講義を受けました。ただ、司書の採用試験がしばらく行われていなかったの、大学の先生から多分ほぼ100%司書にはなれないだろうと言われてました。

臨時の職員として働いている時に、十年ぶりにたまたま郡山市の司書の募集があって、そこで採用されました。倍率は10倍とかでした。そこから司書の採用はないので私と同期4人は永遠の若手職員です。他の方は会計年度任用職員さんや市役所の事務員さんです。

本に関わる仕事は沢山あるけれど、書店員や出版社などの他の仕事は考えませんでし



た。学校の図書館司書も考えましたが、募集がなかったのでもねえでしたな。

**百花** 主な仕事内容はなんですか？

**安藤さん** 私は郷土資料担当で福島県内や郡山市内の資料を整理してます。郡山市の行政資料や一般の方から頂いたものを保存する仕事ですね。一般の方が自費出版して寄贈されたもののデータを作成するのが大変で、分類などで悩む時もあります。

毎日のように県外からも郵送などで寄贈されてます。図書館によく来る人が、図書館で調べたものをまとめて寄贈してくれるんですよ。

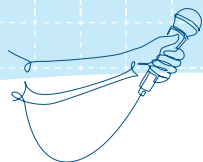
他にも、新聞に載ってるものを見て借りたい人がやって来たりして、その対応をするような仕事をしています。

# INTERVIEW

## 06

映画監督

今泉 力哉さん



11月末、僕はある人にインタビューをする機会をいただきました。その人の名は、郡山市出身の映画監督、今泉力哉さんだ！「街の上で」や「アイネクライネナハトムジーク」、「ちひろさん」などを撮った監督。そんな今泉監督に、普段は見ることができない映画監督の「素の姿」について興味があり、色々インタビューをさせてもらいました。

**安藤 太一** (以下、太一) 好きな食べ物はなんですか？

**今泉さん** 好きな食べ物？！難しいですね(笑)。これが好き！みたいなのはなくて、みんな好きなカレーとかラーメンとかハンバーグが好きですね。あとはドトールで冬限定で販売しているツナCHEDDARチーズが好きですね。でも固形のバターだけが食べられません。バターを使ってるとかは大丈夫なんですけど、パンとかに塗ってあると食べられませんね。

**太一** 学生の時どこで勉強しましたか？

**今泉さん** 実家は一軒家だったんですけど、自分の部屋では勉強せずに奥の使っていない部屋で散らかしながら勉強しましたね。

**太一** 小さい時に好きだった映画はなんですか？

**今泉さん** おじいちゃんに映画館に連れて行ってもらった時に「ホームアローン」と「シザーハンズ」の2本立てをやっていて、それを観たのは覚えてますね。あまり大作とかは観なくて、マーベルとか全然観ないし、ホント偏ってますね(笑)。色んなジャンルを観るタイプではないですね。

**太一** 好きなジャンルとかありますか？

**今泉さん** 日本映画ですね。日常の話が好きです。CGやアクションがすごいというやつより人物を描いた日常劇が好きですね。

**太一** 最近観た映画ってなんですか？

**今泉さん** 今年は特殊なくらい若い日本の監督が劇場公開したり、「カンヌ」「ベルリン」「ベネツィア」のヨーロッパ3大映画祭で入選する監督が5、6人くらい一気にドン！って出て。去年は映画作って全然観れてなかったので、その人たちの作品は片っ端から観ましたね。「ナミビアの砂漠」はめちゃくちゃ面白かったです。監督とは知り合いだったのですぐ連絡しちゃいました。ただ、若手が次々出てくると仕事を奪われるみたいで怖いですけどね(笑)。でもそれは日本映画にとっていいことだとは思います。



**太一** 監督になったキッカケってなんですか？

**今泉さん** キッカケは、映画が好きっていう感じですね。高校卒業するまでは自分が作るなんて思ってもなかったですし、どうやって作るかも分からない過ぎてただ観てました。高校では体育とか美術は好きだったけど、そっちの成績は悪くて美術でも全然絵が描けなくて。だけど、やりたいことはそっちだったので芸術系の大学に行くって決めて名古屋の大学を受けました。試験が前期と後期で2回あって、前期はセンター試験が500点で絵も500点でセンター

インタビュー



帝京安積高等学校 1年  
安藤 太一

◆インタビューを行っての感想

最初第1希望に映画監督と書いたときは流石に無理だろうなあ……と思ってましたが、希望が叶ってとても嬉しかったです。インタビューをする前、かなり緊張していましたが監督が思ってる以上にフランクに接してくれてとても話しやすかったです。映画の話はもちろん、音楽の話もできましたしこれから自分がどう進んでいくかも考えるきっかけにもなったので本当にインタビューできてよかったです。自分もいつかインタビューされる側になれるくらいになりたいです。

私の思う「カッコいい大人」とは……

やりたいこと、やりたかったことを本気で楽しんでできる人。

試験の方ではまあまあ順位付けだけど絵が150点を取ってそれで落ちて、後期試験は配分が勉強9割、絵が1割でそっちで合格して入れました。そこでは、映像だけでなく建築の図面を描いたり、彫刻をやったり全部一通り触れてから映像をやってく……みたいな学校でした。

でも大学で作った映画は全然上手くいなくて、1回大学卒業と同時に挫折してやめまして、その後吉本のお笑いの芸人学校に1年通ってその後また映画学校に行き直しました。

**太一** 僕も文化祭でクラスで映画を作ったんですけど、難しいですね(笑)、映画作るのって。

**今泉さん** 難しいですね。でも、作るのなんか面白いんですけどね。大変さはめちゃくちゃあるし、大勢集まるのも全然好きじゃないから、なるべく隅っこに寄ってます(笑)。

**太一** カメラマンさんって何人いますか？

**今泉さん** 基本1個ですね。カメラ1個。これは色々な方法論があるんですけど、カメラが2つ3つになると照明にこだわれないんですよ。カメラを2つ挟んじゃうとその先に照明が置けないから綺麗に撮れなかったりするんで、1個ずつ丁寧に撮った方が画は綺麗になるし、カメラマンが2人いると好みも変わるし。なので、1人の人の能力にお願いしています。

**太一** 映画のジャンルによって撮影の方法も変わるんですか？

**今泉さん** 違いますね、だいぶ。自分はどっちかっていうとカットも細かなくて、何ならワンカット5分とかずっと2人の芝居撮るとかも多いんです。だけど、やっぱりそういう作品は特殊というか、自分の映画の特徴の1つは長回しっていうので人を追いかけて撮るってことはなくて、カメラを固定し

て喋ってるのを撮るのが多いですね。

**太一** 作って楽しいとか、思うことってありますか？

**今泉さん** 基本的に撮影現場が好きなのは多いと思うんです。だけど、俺は現場楽しいみたいな人じゃなくて、朝早いのも嫌だし、人多いのも嫌だから向いてないと思ってます。ただ、そういう向い



てない人にしか撮れないものもあるのかなって思ってるのもあるし、楽しいことっていうと、映画館で観てきたお客さんの反応を見るのは喜びにはなります。そのお客さんに届いたことで、もう1個の完成になるのかなと思ってます。

もう1つは、自分で脚本を書いて俳優

さんがどう芝居するか1個の正解を持ってって思っています。なので、1回俳優さんにお任せしてもらって、自分の正解と違う時が嬉しくて、そういう想像してないことが起こるのが楽しい瞬間ですね。なるべく自分はアイデアを取り込みたいので隙間を作ってます。

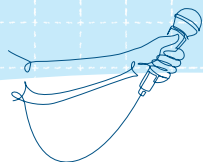
**太一** 主題歌ってどう決まるんですか？

**今泉さん** ある程度規模が小さい映画だと選べたりします。規模が大きいと大人の事情が現れたりします(笑)。その事務所の繋がりとか。自分がこの人とやりたいって言ってその人とやれることもありま。こだわりはありますね。やっぱり大事だと思うので、決められるなら自分で決めたいです。



## LIVE STAGE PEAK ACTION

オーナー／  
渡邊 文昭さん



LIVE STAGE PEAK ACTIONには、自分が音楽をやっていることやPAさん（Public Address…音量や音質を調整する音響技術者）に興味があることから、色々なお話をお伺いしました。



**添野 耕平**（以下、耕平） PAさんがハウリングを起こさないように気をつけていることはありますか？

**渡邊さん** モニター（スピーカー）の調整をして、ハウリングしそうな部分を事前にチェックしてハウリングが起きそうな部分の周波数を切っておくということをしてますね。仮にハウリングが起きた場合には、すぐにその部分の音を切ったりとかモニターの音量を下げたりとかして対応してますね。まあハウリングしないのが一番なんですけどね（笑）。

**耕平** この仕事をやって楽しかったことを

教えてください。

**渡邊さん** 私、自分の住んでる地域とかふるさとで活動しているアーティストさんとかが好きで……。

やっぱりそういう方がうちに来て演奏してくださることとか……後はそうですね。そういった方々とコミュニケーションを取ったりして仲良くなれたりするのが楽しいですね。

**耕平** PAをやっていて出会った珍しい楽器等がありますか？

**渡邊さん** いっぱいありますよ！例えばダクソフォンという木を擦って音を出す楽器とか、



ダクソフォン

十何弦あるギターとか、あとは独自で作ってる方も結構いて。例えばスプーンとかをはんだごてで繋いで音を出したりとか、本当に色々いますね。自作の方は本当に面白いです。「それなに？」って感じの方が多くて、全然出る音が予測できなくて面白いです。

**耕平** 今までこの仕事やってきて感動したバンドってありますか？

**渡邊さん** もう逆に感動したバンドしかないくらいです（笑）。やっぱり一生懸命やってる人はカッコいいですよ～。あとはやっぱりグッとくるのは地域に根ざしたローカルで頑

## インタビュー



帝京安積高等学校 1年  
添野 耕平

## ◆インタビューを行っての感想

今回インタビューをさせていただいた感想ですが、本当に今までにない経験でした。地域の大人にインタビューをするということでしたが、最初は色々と不安でした。こんなことを言うのもなんですが、ライブハウスに行くということでもなんとなくアウトローな雰囲気を感じるし、神経を刺激するようなことをしないかとか色々考えていたところでした。渡邊さんは非常に人当たりの良い方でリラックスしてインタビューに臨むことができました。本当にありがとうございました。

私の思う「カッコいい大人」とは……

常識があり、きちんとしたコミュニケーションを取れる誠実な大人。

張ってるバンドとかですかね。やっぱり郡山を背負ってる感じがカッコいいと思いますね。

**耕平** オリジナルの曲を聴くのはやっぱり楽しみですか？

**渡邊さん** 楽しみです！！基本PEAK ACTIONに来てくださる方は結構オリジナルの方が多くて、それで勝負してる方が多いですね。僕自身、オリジナルを聴くのが好きなので……楽しみですね。

**耕平** この仕事の難しいところと楽しいところはなんですか？

**渡邊さん** 難しいところはやっぱり音の調整ですかね～。いつまで経ってもキリがなく難しいですね。逆に楽しいところはブッキング（イベントに出演してくれる出演者へオファー、出演の交渉をすること）の仕事で、この人とこの人が会ったら面白そうだな、とか思った時にブッキングで一緒になってもらって、仲良くなったりして次のイベントに繋がる時とか。やっぱり人間関係が面白いですね。あとはやっぱりライブを見



るのも楽しいですし、全部楽しいですね。

**耕平** PEAK ACTIONという名前の由来はなんですか？

**渡邊さん** 前のオーナーが決めた名前で、Peak（頂点）を超えた活動とかそういうステージを目指すという意味の名前を継がせてもらいました。

そしたらアメリカでピークアクションさんっていうライブカメラマンの方がいて、「お互いピークアクションだね。」って感じでたまに連絡取ってます。

**耕平** 尊敬してる方は誰ですか？

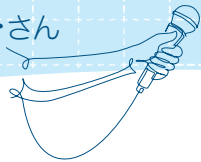
**渡邊さん** 実は結構いっぱいまして。自分はやっぱりライブハウスの人間なので、クラブソニックいわきのスタッフさんとか #9（シャープナイン）さんのスタッフさんとか、ライブハウスの方を尊敬してますね。

# INTERVIEW

## 08

福島大学 国際交流センター

特任助教／  
クラルト・ヨーストさん



クラルト・ヨーストさんは以前郡山市役所の国際政策課で働いていて、その後2年間は旅行会社に務め、今年の4月から福島大学の国際交流センターで働いている方です。授業は異文化理解などで、色々な国の留学生と日本人の生徒と一緒に福島を発信するなどのプロジェクトをしています。

**志賀 雄彦** (以下、雄彦) なぜ日本語を学び始めたのですか？

**ヨーストさん** 高校の時にひらがなとカタカナなどを学ぶのが楽しかったからです。日本語に初めて触れたのは、友達が日本のアニメをおすすめしてくれたからです。中でも好きなアニメはNARUTOと鋼の錬金術師でした。



**雄彦** 通訳・翻訳の仕事をしていて辛かったことやよかったことはありましたか？

**ヨーストさん** 通訳は集中力がとても必要で、同時通訳などでは考える時間がなく失敗をしてしまった時があります。1番恥ずかしかった失敗は、アメリカの野球の試合の通訳をしていて、郡山市長は「本日はヨーク開成山スタジアムによろこそ」と言っていたのですが、私にはヨークがヨークベニマルということだと思ってしまって「welcome to the YORK BENIMARU kaiseizann stadium」と言ってしまったことですかね。逆によかったことは、海外のお客さんが来た時とか外国籍の市民の方がいらしゃった時に問題解決などができた時で、喜びを感じますね。

**雄彦** 英語を学ぶことのメリットなどはありますか？

**ヨーストさん** 英語を学べば世界が広がることですね。例えば、ネットに上がってる情報などは日本語で書いてある文と英語で書いてある文を比べたら量が全く違うから、何かの話題などを知りたい時とかに理解できるツールとして1番便利かなと思います。

**雄彦** 今は科学がすごい進歩していてスマホ1台などで同時通訳ができるのですが、10年後などは通訳の仕事などは無くなっていると思いますか？

**ヨーストさん** それはとても懸念されてま

インタビュー



あさか開成高等学校1年  
志賀 雄彦

### ◆インタビューを行っての感想

ヨーストさんはとても優しく、どんな話でも乗ってくれてしっかりとアドバイスをくれる人で、私の将来への成長を促してくれました。1時間半と短いインタビュー時間でしたが、とても自分にとって大切なものになったと思います。この経験を活かしてこれからの学校生活をよりよいものとし、海外への進学を第1目標として頑張っていきたいと思っています。最後に、このわかものボーダーレスプロジェクトは社会に向けての考えを変えるいい機会でもありました。

私の思う「カッコいい大人」とは……

適度に遊び心を持っていて仕事もできるような、ハイブリッドな大人がかっこいいと思います。



すね。昔は文脈がわからなかったりするとGoogle翻訳などで正しく翻訳ができなかったりもしましたが、今はChatGPTなどのAIによって文脈がわからない場合でも翻訳できるようになっています。でも、やっぱり人間にしかできない所もあります。例えばユーモアとか人間性を表すにはまだ人間による通訳が必要だと思います。

**雄彦** 日本に来てびっくりしたことはなんですか？

**ヨーストさん** びっくりしたことはコンビニですね。24時間開いていてなんでも揃っていて。コンビニの入店音や店員さんが「いらっしゃいませー」と言っていることが面白く感じていました。

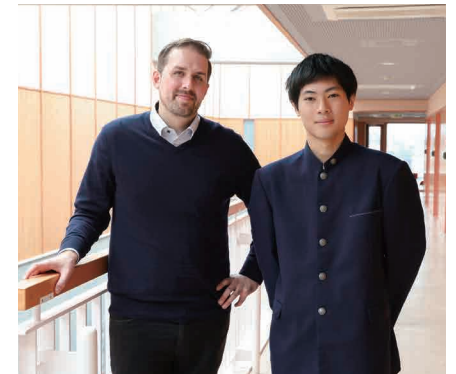
**雄彦** 郡山に来てびっくりしたことはなんですか？

**ヨーストさん** 石筍ふれあい牧場でBBQできたり、いわきのアクアマリンで寿司が食べられたりすることにびっくりしました(笑)。

**雄彦** 日本語で一番難しかったことはなんですか？

**ヨーストさん** そうですね……。やっぱり敬語とか、最初は「です・ます」から学ぶので、誰に友達のような話し方でよくて、誰に

敬語を使えばいいのかなど使い分けが難しいですね。教科書から学んだことなどたくさんありましたが、日常的に使われている言葉が分からないなどもありましたね。





# わかものボーダーレスプロジェクト2024 サポーターズからのメッセージ



郡山市政策開発課  
Z世代活躍係  
松本 ちひろ

今回皆様には、関心ある分野で活躍する地域の大人と出会い、将来やりたいことを考えてもらいました。その実現には経験や知識ある大人との交流が鍵になります。私たちZ世代活躍係も、皆様がやりたいことを安心して話せる係でいたいと思っています。これからも気兼ねなくお声がけください。



講師  
さとのば大学学長  
兼松 佳宏

僕も知らなかった世界ばかりで興味深く、また、それぞれの仕事に対する熱量やユーモアが溢れていて、高校生のみなさんとの対話だからこそ生まれた、まさに「interview」な内容だったと思います。今回気づいた、自分らしく社会に関わる喜び、不思議なご縁に導かれる喜びをヒントに、どうぞこれからの進路選択を楽しんでください◎おつかれさまでした！



運営事務局  
地域おこし協力隊活動推進協会  
佐藤 恵美

地域で活躍する「大人」の全員に共通していることは「みんなひとりではない」ということ。助け合い、分かち合いながら地域で活躍しています。

そして、高校生の皆さんも「ひとり」ではありません。このプロジェクトを通して出逢った地域の大人たちや仲間との繋がりを大切に、今後も皆様のご活躍を応援しています！

わかものボーダーレスプロジェクト  
公式Instagram @wakamono\_borderless



郡山市公式ウェブサイトから、  
これまでの活動内容をご覧ください



## カッコいい大人、いました (こおりやま広域圏わかものボーダーレスプロジェクト 2024)

- [発行日] 2025年1月20日  
[発行所] 郡山市政策開発課 Z世代活躍係  
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23-7 TEL:024-924-2021 FAX:024-924-2822  
[発行者] わかものボーダーレスプロジェクト  
[編集] 一般社団法人地域おこし協力隊活動推進協会  
〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番1  
郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター11号室  
[編集部] 佐藤 恵美、佐藤 洋介  
[撮影] 猪腰 雅矢  
[アートディレクション&デザイン] 有我 成美

